

寡頭政治家の嘘、盗み、殺し、破壊が、いま徹底的に暴か れている

By Joachim Hagopian

Global Research, June 28, 2014

この論文の URL は: <http://www.globalresearch.ca/todays-oligarch-curtain-of-lies-theft-death-and-destruction-are-exposed-as-never-before/5388945>



心理学的には我々の信仰体系が、周囲の世界についての我々の考え方を形成し、実はそれが我々の現実感覚そのものとなる。我々を最初に世話してくれる者——ほとんどの場合母親——が、我々とこの世界についての彼らの見方を我々に投影し、それを我々が成長する自分自身の自己感覚や世界観として内面化していく。前の世紀においては、マスメディアの影響力も同じように、我々の世界と自己概念をますます形成するものになっていった。成人して若い大人となったときに、我々はしばしば、特に同年輩者との間の個人間の経験や社会運動に基づく我々の考え方・感じ方を、周囲の世界との関係において、もっと本物の、本来の自己との共鳴の発見へと修正しながら変えていく。しかしより大人の経験を積むにつれて、ある実存的なジレンマや危機に直面することがよくある。それは、自分が知っていると思い込んでいたものと、ますますそれに合わなくなっていく現実のインプットとの間の、増大する不協和音に直面した時である。

現在、アメリカや世界の他の多くの場所において、我々が現実だと教えられてきたものが決してそうではなかったと悟るようになった多くの人々が、自分の信仰体系に根本的な変化が起こるのを経験しつつある。現在、この地球の多くの人々が、人生と世界をどう見るかに

ついて、考え方を一変させる信念の転換を経過しつつあり、地球人口のかなりの人々の間で同時的にそれが起こっている。前例のないシフトが起こって、我々がずっと昔から伝統的に真理だと教えられてきたものに背を向け、政治指導者や主流メディアや教育制度が我々に与えてきたものに、ますます疑いと不信の目を向けるようになった。今日、世界中のますます増大する人々が、昔から教えられ、社会化され、政治的に正しいと信ずるように躰けられてきたものが、全くのバカ話だったという、新しく見えてきた現実とその洞察に目覚めつつある。

最近の傾向や世論調査は、この世界意識の転換によって、アメリカ・ヨーロッパを通じて、連邦政府に対する不信が大きくなりつつあることを示している。今年1月に行われた「エーデルマン世論調査」では、アメリカ人のほぼ3人に2人が自分たちの政府に不信を抱いていること、2014年4月のReason-Rupe世論調査では、4人のうち3人のアメリカ人が、彼らの政治家が腐敗していると考えていることが明らかになった。昨年、Pew Research Centerは、5人のうち4人以上のアメリカ人が、自分の政府を全く、あるいはほとんど、信じていないことを発見したが、これは政府に対する不信の歴史的記録に近いものである。

先月のEU議会選挙の結果を、EU（欧州連合）が“次のヨーロッパ合衆国”になることの完全な拒否表明だとして宣言した、ヨーロッパ全体の強力な反EU選挙民たちは、EUをきっぱり廃止するという、特別のアジェンダを携えた左右両派からなるグループをブリュッセル（EU政府）に送った。選挙民たちの怒りは、経済の低迷するフランス、また緊縮政策に疲れ果てた、ギリシャからデンマークを経てイギリスに至る各国から起こっている。アイルランドがEUを脱退しようとする強い動きが見られる。強力なドイツによって課せられた厳しい緊縮政策に最も大きな影響を受けている、特に南欧の住民たちは、大陸の政府を非難している。石油に富むスコットランドは、イギリスからの独立を求めて、分離運動を先導さえしている。多くのヨーロッパ人は、大きな政府に対する軽蔑を表明して、それが高い失業率をもたらし、彼らの地方的な必要に応えることに無関心な、誤った政策を非難している。米国とヨーロッパを超えて、地球上の更に多くの市民たちが、彼らの選出された公職者たちにますます腹を立てているが、それは政治家たちの優先課題が、彼らの人民の必要よりも、彼らの寡頭政治家人形遣いの要望に応えることだとわかってきたからである。

主流メディアに対する同じような否定的感情もまた、世界的な出来事を報道する企業メディアへの全体的嫌悪となって表れている。最近では、ますます多くの人々が、情報を得るのにオンラインの代替ニュース・ソースに頼るようになったが、これは企業メディアが、政府の情報攪乱と宣伝の主たる手先として、その単なる延長のようになったことに、一般大衆が気づき始めたからである。伝統的に威信と信望のある、ワシントン・ポスト、ニューヨーク・タイムズ、ウォールストリート・ジャーナルのような新聞でさえ、政府とつるんで結び合っ

たジャーナリズムとみなされるようになった。そのため、昨年6月の「ギャロップ世論調査」では、21から64歳のアメリカ人の、驚くなかれ80%が、主流メディアは信用できないと言っている。こうした結果はすべて、アメリカのみならず世界中のますます増大する人々が、自分たちは、政府と企業メディア両方の腐敗した指導者によって、方法論的かつ恒常的に、ウソを注入され、間違っただけの情報を与えられているという事実を、信じ受け入れるようになったことの反映である。

社会的・文化的環境の産物として、西洋に生まれ育った人間は、巨大な地球的規模の洗脳の犠牲者として、怪しげな二元論的世界を与えられ、どちらに付くかを“選ぶ”ように強制されている。もちろんその選択は、自分自身の国家、文化、民族そして/または宗教の、政治的な側を選ぶしかなく、自分の国家/文化/宗教は、相手側と比べてはるかに正義があり優秀だということを、自動的に受け入れるように操縦されている。

第二次大戦以来、北米の人々は、ロシアと中国という共産主義国家を悪魔のように見るように教え込まれ、冷戦の第二部がまた戻ってきた現在、彼らは我々のいわゆる敵に再び向き合うことになった。そこで、ソビエト帝国の崩壊と9・11ネオコン偽旗攻撃の後で、新しいアメリカ製の悪者オサマ・ビン・ラディンと、彼の悪者集団アルカイダ・テロリスト組織がやってきた。常に必ず、我々から最も遠く異なって見える人々が、世界の悪者とみなされる。

幸いなことに、時間を経て、この単純化されすぎた世界の白と黒の解釈は、国粹主義的偏見として、我々の複雑な世界の真のあり方を歪めるものとして、疑問とされ間違いとされた。我々の多くは、同じ人類のメンバーとして、我々を結びつける共通の人間性の著しい相似の方が、文化、皮膚の色、国籍、政治的考え、住む場所や宗教の違いなどより、はるかに大きいということを、昔から直観的に知っていた。アメリカでも世界のどこでも、我々の多くが、長い間、意図的に方法論的にウソを教えられ、操作されてきたという事実を、ますます目覚めつつある。アメリカの教育制度は、若者を社会化し、計画操作し、洗脳して、従順な、考えを持たぬ、ロボットのような成人を作ることであって、本当の現実を探究したり、批判的能力を養って、惑わしの世界の中に真理を見つけたりすることではない。

「我々対彼ら」「あなたは我々の仲間か敵か」というこの二分法が、人為的な仕組みとしてずっと用いられ、人間をグループの内部か外部かに分けるようにさせた。不幸なことに、これは洞窟人間が最初に洞窟から外に出て他の種族に遭遇して以来、ずっと続いてきた。しかし人間の移動や、現代技術による飛行機旅行や、最近ではインターネット旅行を通じて、世界を“地球村”として見る見方が、地球を、今ここにある日常の、受け入れられた現実には縮小させてしまった。

その結果として、近年、国家や大陸の世界観がよりなじみ合い、地理や文化を超えるマスメディアの技術によってアクセスがより容易くなった。世界の多様な文化や背景をもつ人々との交流によって、世界はより緊密になった。そう言った上で、それに逆行するように、現在の地球は、ある地球的寡頭政治家たちによって所有され、支配され、操作される、単一の地球化経済に突き動かされて、地政学的により分割された分極化へ向かって、急速に移行しつつある。その「新世界秩序」(New World Order) というねじ曲がったビジョンが、現在、地球人口の多くを洗脳し、比類ない潜在力をもって、互いを恐れ、憎み、殺すように仕向けている。しかし我々のすべてが、黄金のカーテンの背後から騙しの操り糸を狂気のように引いている、影のエリートの描いてみせる分割の図式に、騙されているわけではない。今世界中に現実起こっていることを虚心に見ていけば、世界の緊張と分割と争いを意図的に増加させようとする、寡頭政治家たちのアジェンダが見えてくる。

今年2月のウクライナでの、アメリカの操作した、悪名高い権力掌握クーデターは、弱い、腐敗した、悪徳のファシスト政府を樹立するものだったが、これは偶然起こったことではない。ウクライナ人民の前に即刻ぴしゃりと置かれた IMF の借款も、偶然ではなかった。東部ウクライナで今荒れている内戦も偶然ではなかった。ここでは政府軍が、ロシア人種が大多数の人民に対して、残虐な戦争犯罪と民族浄化を行っている。それを言うなら、ベネズエラで今年初めから起こっている政治危機も、単なるランダムな偶然ではない。

注意深く仕組まれた計画によって、US - EU - NATO 連合は、寡頭政治家の上層部の命令を忠実に実行し、地球上のすべての大陸を不安定化・分極化・軍国化し、西側との地球的な争いにおいて、地域の敵たちを互いに争わせ、東側を突いたり騙したりして、北極圏から地球上の隅々までを軍事紛争に巻き込もうとしている。現在アジアでは、一方に中国と北朝鮮、他方にアメリカの同盟国、日本、韓国、フィリピン、それにアメリカの海軍基地が計画されているベトナムの間で、緊張が高まっている。

それに現在、中東は、恒常的に爆発が起こる戦争の温床である。同じパターンの戦争が、シリア、イラク、アフガニスタン、それにリビアでずっと起こっていた。それに、同じように、長年パキスタン、イエメン、ソマリアで行われている隠れた侵略無人機作戦によって、アメリカは、その帝国主義的軍事力の足がかりと覇権を、更に南、サハラ以南のアフリカにまで伸ばそうとしている。

3年以上もの間、ワシントンは、アメリカの納税者によるドルを、中東とアフリカのアルカイダ過激派民兵を武装させ、資金援助し、訓練するために使ってきた。これはシリアの指導者アサドの政府軍に対して代理傭兵として戦わせるためだが、それは明らかに、シリアの第一の同盟国イランに戦争を仕掛けるための前段階である。オバマは、シリアのこれら同じア

ルカイダ反乱軍に、軍備のための更なる5億ドルを約束したばかりである。

しかし最近、シリア軍が優勢になるにつれて、ワシントンは、もう一つ別のイラクでの政権交代を画策し始め、いわゆる ISIS (Islamic State of Iraq and Syria) の兵士をシリアからイラクに送り込み、首都バクダッドのシーア派の拠点を除くこの国のあらゆる主要都市を占領した。大きな流血の惨事が待っている——アメリカが数年前に作った宗派の内戦が、流血の政権交代へとシフトして加熱するとき。アメリカは、イラクと ISIS と、自分の弱いマリキ傀儡政府の、戦う両サイドを支援するという罪を犯している。これは寡頭政治家たちが、昔から効果があり、欺瞞的な、“分割して統治せよ” という戦略を用いて、共和・民主両党を支援しているのに似ているとも言える。

もちろんアフガニスタンの似た状況においては、タリバンという敵が、この国の領土の大半を支配していて、アメリカ軍が今年末までに撤退するまでの期間を待っている。9800名の後に残される、指定された米兵は、おそらくアフガン国軍のためのアドバイザー役なのであろう。10年続いたアメリカの戦争とイラクの占領は現在、元へ戻った状態だが、これは2015年に、タリバンの大軍が首都カブールに迫ったときに、アフガニスタンにおいてそのまま再現される公算がきわめて強い。

一方、アラブの春と呼ばれる、CIA - 特別作戦によるほとんどすべての政権交代は、その国の人民にとっては災難だった。例えばエジプトでは、三番目の米支援による政府は、頂上からの抑圧的軍事独裁によって運営されている。またアメリカは、現在リビアにおいて、高度に混沌とした、無法と暴力の、失敗した国家を作り出している。寡頭政治家たちの、地上のあらゆる第三世界国家を不安定化させようとする惑星的ビジョンは、現在、加速度的に計画通りに進行している。

最近数十年のうちに、アメリカは企業化された疑似民主主義国から、完全な寡頭政治国家へ移行した。そこでは、最も強力な国際企業を所有している寡頭政治家たちが、イデオロギーや文化と関係なく、ほとんどすべての国の政府を取り込むことになる。これまでも増して現在は、カネが権力を買っている。もはや米大統領も、米議会も、米最高裁も、アメリカ人民の利益を代表するものでなく、腐敗した寡頭政治内部で働く手先の役者として、彼らの悪なる命令を実行する政治的傀儡に仕立て上げられて、すべてが影の権力者に従っている。そのように、今日ほとんどすべての主要な政治的役者は裏切り者であって、彼らが守り維持することを宣誓した米憲法を裏切り、彼らを選挙によって権力につけた人民を代表しないことによって、米市民を裏切っている。

地球化と私有化の過程を通じて、アメリカによく似た過程が、地上のほとんどあらゆる大陸

の国家と政府に起こっている。US - EU - NATO の軍事力を配備することで、寡頭政治家たちはすべての政府を意に従わせてきた。だからこの惑星上の人々は、彼ら自身の生命に対する言い分も権限もほとんど持っていない。その理由は、契約した奉公と奴隷仕事という道徳的に破産した、グローバルな経済システムが、とうてい支払いきれない負債の中で人々を溺れさせているからである。最近、人々は、より少ない報酬で、より長時間、より過酷に働きながら、自分の頭の上の屋根と、家族に食べさせる食べ物を確保するのがやっとである。ところが、この次第にひどくなる地球的緊縮政策と貧困化の時代に、ますます大きな圧迫が多くの人々をかろうじて生き残らせているが、残念なことに、生き残れない多くの人々がいる。

増大する不平等と貧富の格差もまた、地球的に前例のないレベルに急上昇しつつある。寡頭政治家の選ばれた1%と、彼らの権力ブローカー召使たちは、地球上の我々持たざる者たちの犠牲において、著しく富裕化している。戦争、貧困、および病気は、第三世界国家を大きく超えて、新しい日常になりつつある。アメリカのみならず南ヨーロッパの中の EU 国家たちが、経済的崩壊への不気味な道をひた走っている。冷戦の敵であり最も強力な BRICS 国、ロシアと中国に導かれて、台頭する国際的運動が緒に就き、標準国際通貨としての米ドルを、ゴミのように捨てつつある。これはアメリカにとって迫りくる“財政の崖”(fiscal cliff)に相当する。

アメリカの成人の労働人口は、すでに存在しない働き口を求めるのをやめてしまった多数の人々を含めると、40%以上が働いておらず、その数はますます増えている。過去 20 年の間、シングル・マザーとしてアメリカの子供を頑張って育てる人々が、最も多い形態としての二親の核家族を、初めて上回った。25 歳までのアメリカの成人の半数以上が、いまだに両親と一緒に暮らしている。しかし財政的困窮が増大したために、より年配の成人とその子供までが、これまでになかった率で、両親の元に戻らざるをえない傾向にある。アメリカの大学生と若い卒業生は、今日、1 兆ドルを超える奨学金の負債の泥沼にはまっているが、これは 2010 年の時点で、国家のクレジット・カードの負債をさえ上回っている。上向きの流動性はアメリカでは遠い過去の話で、より若い成人世代が、彼らの両親と同じ高い生活水準を享受することはもはや望めない。家族構成の急速に変化する社会経済的な力学と、アメリカの若い世代が次第に高まる不安と絶望の風土の中で育っている事情は、アメリカ史を通じて、どんな過去の世代ともはるかに異なり、見通しは暗い。

アメリカに製造業部門が残っておらず、世界中であまりにも多くの戦争を仕掛ける米帝国を支える中産階級が減っているために、アメリカは負債国として、安価な外注の、ほとんどは中国からの生産物に依存する消費者社会になった。都合よくでっち上げた“テロとの戦い”によるアメリカの恒久的な戦争政策は、回復することなくいまだによろめいている厳しい

景気後退を通じて中産階級を枯渇させたが、それは主として、“大きすぎて倒れない”大企業への莫大な一時救済金のために、すでに痩せ細った納税者を更に絞る貪欲な銀行家ギャング (banksters) とウォール街の犯罪者たちによって、引き起こされたものである。アメリカの国家的優先事業は、明らかに自らの市民の世話をすることではなく、唯一、戦争で利益を上げる軍産複合体が、更に汚れた富を築くことを確保するために、アメリカ史上最も長期の戦争を続けることであり、一方、世界に対しては、不安定化するための政権交代、大量死、それに地球破壊によって、大災害を起こさせることである。

一方で、過重負担の中産階級は記録的な少なさにも縮小し、貧困層は記録的な多さにも達している。この誰の目にも明らかな盗みと、縮小する資源のひどく間違った管理と、浸透する犯罪的な行動の結果として、アメリカは絶望的に行き詰まり、2008年のバブル崩壊から回復するには程遠いところにいる。2008年以来、世界の政府負債の総計は40%増加し、一方、最も大きな一時救済金を得た銀行たちは、過去6年間だけで、37%という大きな成長をしている。ところが、そのすべての犯罪的盗みと、そこから起こった人間の苦しみにもかかわらず、銀行家や企業の幹部は誰一人として訴えられた者もなく、地上で最も金持の最強の国家をほとんど破産させたことに対して、牢屋に入った者もない。

一方、強欲な、世界規模のIMFや世界銀行からの借金は、都合よく、第三世界の諸国家を締め付け、彼らがとうてい返済できない負債を負わせ、自分たちの祖国の地下資源を最後のオンスまで搾り取ろうとする、強欲な、私有化する国際企業によって、無抵抗に略奪されるがままになった。

この惑星にますます多くの戦争をもたらす、地球化、私有化、そして軍事化という、この計算された不気味なプロセスはすべて、世界の70億の人間から文字通り命を搾り取り、人間という家畜を優生学的に、わずか5億から10億あたりに減らそうとする、前もって計画された、寡頭政治家たちのアジェンダの一部である。これは、今地上に生きている14人のうち13人までが、次のいくつかの戦争のどこかで、大量虐殺される予定だということを意味する。これが寡頭政治家の“新世界秩序”計画が完了したときの形で、必要と判断されて残された10億以下の人間たちは、マイクロチップを埋め込まれ、寡頭政治家の従僕として奉仕することになる。これが現在、方法論的に実行されつつある彼らの悪魔的なアジェンダであり、将来的にこの地球惑星の生命を、彼らのために、彼らだけのために、より維持しやすくする方法である。

こうした増加する盗み、死、それに破壊が、世界中で爆発的な前例のない規模に達し、第三次大戦が今にも起こりそうな状況にあって、現在、世界のあらゆる目覚めた市民が、この一握りの富裕な寡頭政治家の家系が、何世紀にもわたってこの地球に何をしてきたかを、認識

すべき時である——それは何世紀もの帝国主義的覇権による民衆の奴隷化、戦争を起こすことによって意のままに操る国際経済である。

どうしてそんなにわずかの人間が、これだけ多くの人間を操り、意のままに殺すことができたのだろうか？ それはサイコパス（一種の精神異常者）の非情に邪悪な方法によるものである。しかしそれにしても彼らは、何世紀もの間、影に隠れて秘密に行動するこのやり方を実に巧妙に継続し、民衆に対して絶えず嘘をつくために、政府の指導者を傀儡として使ってきた。そしてもちろん、彼らはかなり前から、マスメディアを使って、我々にとめどもなく嘘をつき、プロパガンダや情報攪乱によって我々を騙してきたが、それはある者たちの存在が知られないようにするためだった。今日、大きなスポーツや、ビデオゲームや、有名人崇拜や、デジタルのおもちゃなどが溢れていて、彼らの策略は、これを利用して大衆の注意をそらし、長い歴史の間にどんなことが行われてきたかを、大衆に悟られないようにすることである。この同じ暗黒の真実を意図的に隠ぺいする歴史本などを通じて、アメリカ人は長い期間、洗脳され、催眠術をかけられて、民主主義、平等、自由、正義という幻想を受け入れてきた——それは少数者のためのもので、我々が信じ込まされているような万人のためのものではなかった。

しかし、ごく最近、世界の注目が、最も新しいコペンハーゲンでの「ビルダーバーグ会議」に集まったことからわかるように、寡頭政治家たちは、もはや我々に注目されることなく遠くから糸を引くことはできなくなった。彼らは、地上の最も有力な政府や企業すべてに究極の権力を振るっているとしても、70億の人間が、いま目を覚まして彼らの悪のアジェンダに注目している。寡頭政治家はこれに気づき、彼らのオズの魔法のようなカーテンが、ついに、間違いなく引き上げられることになったことに、にわかには怯え始めた。そのカーテンの背後に見えてくるのは、一握りの皺だらけの、まぬけ面をした、アニメ『ザ・シンプソンズ』の、いつも命令を下していたが最後には無残に裸にされてしまった、ミスター・バーンズに似た、弱々しい白人の老人たちである。ますます多くの我々世界市民が、毎日のように、人類に対する彼らの悪徳に満ちた、悪逆な犯罪に気づいていくにつれて、かつてなかったほどに我々は、自分が彼らの悪魔的な計画と悪行を問い糺す、強い立場に立っていることに目覚めつつある。

我々は、意識的抵抗のこの比較的早い段階で、自分が持っていると思う以上の強い力を、集団としてもつことができる。地球的に目覚めた、倫理的動機をもつ、人道的で同情を感じず世界市民として、我々は、人類をあまりにも長く締め付け、奴隷化してきた足枷から、ついに自由になる機会を捉えている。圧倒的な人種の相似性が、いま地球人を同志として、同じ人類家族の豊かに多様な構成員として、またこの病んでいる、たった一つの地球に平和と正義をもたらす集団的市民活動家として、固く団結させている。この活動は、一握りの圧倒的

に少数の寡頭政治家たちが、我々が最も大切な神聖なものと考えずべてを破壊する前に、実を結ばなければならない。真理を認識し、神が意図したように地上の生命を保存するために、団結して行動するのは、我々普通のまともな人々の義務である。我々の信念と我々の行動が、我々の現実を決定するであろう。

Joachim Hagopian はウェストポイントの卒業生、かつて米軍士官を勤めた。彼は自分の特有の軍隊経験に基づいて “*Don't Let the Bastards Getcha Down*” (あいつらに負けてはならない) という手記を書いた。これはアメリカの国際関係、リーダーシップ、国家安全保障問題に焦点を当てたものである。兵役後、ヨアキムは臨床心理学の修士号を獲得し、免許セラピストとして4半世紀以上精神疾患の分野で働いた。現在は著作に専念している。